

## 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のゆかりの地を訪ねる

### 鎌倉との境界(届かぬ腰越状)

本郷ふじやま公園古民家歴史部会 神田 恵仁

実施：令和5年10月4日(水)

集合：鎌倉駅西口時計塔広場

解散：腰越駅 or 鎌倉駅

行程：鎌倉駅→問注所跡→裁許橋→六地藏→安達盛長邸跡→甘縄神明社ごりょう→御霊ごりょう神社→極楽寺駅(江ノ電)→腰越駅→満福寺→腰越駅→鎌倉駅

**源義経** 平氏を滅ぼした後、源義経(菅田将暉)は兄である源頼朝(大泉洋)と対立し、朝敵となってしまいます。源義経は、源頼朝が「自分の兄だから」という理由で、兄の家来に対して横柄な態度をとってしまいます。源義経の態度に対して、源頼朝は不満をつのらせて行きました。源義経は「戦の天才」と呼ばれ、実際に数々の戦で勝利して功績を残してきました。しかし、「一ノ谷の戦い」でも「屋島の戦い」のときも、その多くが奇襲攻撃によるものです。当時、武士の世界においては戦いの前には正々堂々名乗るのが常識でした。義経の戦い方は義経の独断による部分が大きく、義経の功績が目立つことによって源氏の惣領を自認していた源頼朝のプライドが傷つけられてしまったのです。3つ目の決別した要因は、後白河法皇から勝手に官位をもらってしまったことです。源頼朝は朝廷の官職に就くことを源氏一門に禁じていたにも関わらずです。これを知った源頼朝は「これでは後白河法皇の家来のようではないか」と憤慨します。こうした背景があり、源頼朝と源義経は互いに対立を深めていくのです。

#### ① 六地藏

鎌倉時代に裁許橋のあたりに刑場があった。のちの人が処刑された罪人を供養する為に地藏を祀ったのが始まり。

#### ② 安達盛長邸跡

源頼朝が伊豆国の蛭ヶ小島に流されていた頃から近侍していた安達盛長(野添義弘)は、「甘縄」に住んだといわれている。

#### ③ 甘縄神明社

源氏と縁が深く、源頼朝(大泉洋)が社殿を修理したと「吾妻鏡」は伝える。また、北条政子(小池栄子)や実朝(柿澤勇人)も参拝したとある。

#### ④ 御霊ごりょう神社

源頼朝の鎌倉入り以前からあった古い神社で平安時代の武士・鎌倉景正を祀る古い神社です。鎌倉権五郎景政が祀られています。

#### ⑤ 満福寺

源義経(菅田将暉)が兄源頼朝(大泉洋)の許しを得るために「腰越状」を書いた寺として知られています。

1185年(元暦2年)、壇ノ浦で平家を滅ぼした義経は、平家の総大将平宗盛(小泉孝太郎)を護送し、鎌倉に凱旋しようとしたが、兄頼朝は鎌倉に入ることを許さなかった。

義経は腰越の満福寺に留まり、大江広元(栗原英雄)を通じて頼朝の許しを得ようとするが、許されることはなく再び京へ戻ることになる。



# 第163回 古民家歴史探訪 (大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地を訪ねる)

## 鎌倉との境界腰越(とどかぬ腰越状)

2023年10月4日実施



源頼朝落馬シーン (NHKドラマ画面より)



④ 甘縄新明神社



⑦ 義経宿陣之蹟



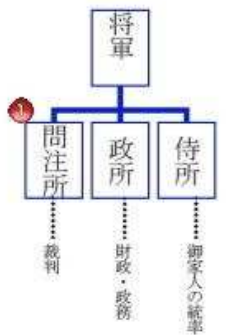
⑧ 安達盛長邸跡



⑤ 御霊神社



鎌倉六地藏



23. 9. 18  
 23. 8. 23  
 22. 12. 30  
 22. 08. 15